

第4回いなべ市総合計画審議会事項書

日時 令和6年10月3日（木）午後2時～

場所 いなべ市役所シビックコア棟

研修室2，3，4

1 開会

2 会長あいさつ

3 説明及び審議事項

(1) いなべ市総合計画基本構想策定スケジュールについて … 資料1

(2) 第3次いなべ市総合計画基本構想の体系（案）と骨子（章立て）（案）
… 資料2

(3) 基本構想について … 資料3

4 次回の会議について

開催日時：令和6年11月6日（水）午後2時から

場 所：いなべ市役所 シビックコア棟 研修室2，3，4

5 閉会

総合計画審議会委員名簿

(敬称略)

大 分 野	小 分 野	氏 名	役 職 等
有識者	学識経験者	丸山 康人	四日市看護医療大学前学長
	学識経験者	林 伸一	林会計事務所所長
行政経営	金融	佐々木 文昭	株式会社百五銀行いなべ支店支店長
生活基盤	市民協働	田中 佳奈	いなべ市市民活動センター
	地域コミュニティ	嶋田 義光	いなべ市自治会連合会会長
	地域防災・防犯	服部 純子	三重県防災コーディネーター
保健福祉	地域福祉	東海林 玲子	いなべ市民生委員児童委員協議会連合会
	高齢者	福本 美津子	社会福祉法人モモ理事長
	障がい者	中村 弘樹	障がい者総合相談支援センターそういん
	人権	一木 尚子	員弁地区人権擁護委員連絡会
	子育て	小林 久里子	NPO 法人こどもぱれっと
	地域医療	相田 直隆	いなべ総合病院院長
教育文化	教育	位田 あけみ	いなべ市教育委員
	文化・芸術	三輪 孝	いなべ市芸術文化協会会長
	スポーツ	高木 修司	いなべ市スポーツ協会理事長
	青少年	山本 たか代	いなべ市青少年育成市民会議副会長
産業	農業	伊藤 和雄	いなべ市農業委員会会長
	観光	伊藤 六栄	いなべ市観光協会会長
	商工業	伊藤 章子	いなべ市商工会
	企業	近藤 雄司	トヨタ車体株式会社いなべ工場 工務部工場管理室総務グループ長

第4回 いなべ市総合計画審議会 座席表

(敬称略)

	四日市看護医療大学 前学長 丸山 康人		林会計事務所 所長 林 伸一			
株式会社百五銀行 いなべ支店 支店長 佐々木 文昭					いなべ総合病院 院長 相田 直隆	
いなべ市市民活動センター 田中 佳奈					いなべ市教育委員 位田 あけみ	
いなべ市自治会連合会 会長 嶋田 義光					いなべ市芸術文化協会 会長 三輪 孝	
三重県防災コーディネーター 服部 純子					いなべ市スポーツ協会 理事長 高木 修司	
いなべ市民生委員 児童委員協議会連合会 東海林 玲子					いなべ市青少年育成市民会議 副会長 山本 たか代	
社会福祉法人モモ 理事長 福本 美津子					いなべ市農業委員会 会長 伊藤 和雄	
障がい者総合相談支援 センターそういん 中村 弘樹					いなべ市観光協会 会長 伊藤 六栄	
員弁地区人権擁護委員連絡会 一木 尚子					いなべ市商工会 伊藤 章子	
NPO法人こどもぱれっと 小林 久里子					トヨタ車体株式会社 いなべ工場 工務部工場管理室 総務グループ長 近藤 雄司	
	副市長 山下 正史	企画部長 出口 和典	政策課長 小谷 直仁	オブザーバー 小林 直樹		
総務部長 近藤 栄人	都市整備部長 大川 洋海	市民部長 伊藤 ひろ	環境部長 岩田 長司	福祉部長 岡 真水	健康こども部長 出口 美紀	農林商工部長 若松 辰彦
建設部長 太田 東洋	水道部長 寺本 靖彦	教育部長 伊藤 功	会計管理者 三好 宏尚	議会事務局長 市川 久春	監査委員事務局長 中村 政紀	
				事務局 児玉 吏	事務局 堀田 彰宏	事務局 西尾 みずき
傍聴席						

第3次いなべ市総合計画基本構想策定スケジュール

No	日程	内 容
1	R6/5/22 第1回 審議会	○委嘱式 ○総合計画 ・いなべ市総合計画について ・いなべ市総合戦略・いなべ市行政改革大綱の延長について ○第3次いなべ市総合計画基本構想策定スケジュール ○各種アンケート調査（事前配布済）についての意見聴取 ・まちづくり市民満足度調査 ・市議会議員アンケート調査 ・事業所アンケート調査 ・市民活動団体調査（新規） ・中高生アンケート調査（新規/高校生） ・高校生ワークショップ（新規） ○いなべ市総合計画審議会の会議に関する指針の改正（案）について
2	R6/6/5	○各種アンケート調査、高校生ワークショップ
3	R6/6/27	○市長インタビュー
4	R6/8/6 第2回 審議会	○令和5年度第2次いなべ市総合計画の進捗管理 ○第2次いなべ市総合計画の検証と総括 ・基本構想の検証（人口、世帯、産業別就業人口、観光交流人口、生活圏交流人口、市民満足度調査の幸福度、財政） ・総合計画基本計画成果一覧表（第2次総合計画未達成理由）
5	R6/9/3 第3回 審議会	○各種アンケートから見る課題について ○第3次いなべ市総合計画基本構想の体系（案）と骨子（章立て）（案）
6	R6/10/3 第4回 審議会	○第3次いなべ市総合計画基本構想の体系（案）と骨子（章立て）（案） ○第3次いなべ市総合計画基本構想（案）の審議 第1部 序論 第2部 基本構想 第3部 人口ビジョン
7	R6/11/6 第5回 審議会	○第3次いなべ市総合計画基本構想（案）の審議 ・第1部 基本構想（第5～6章）
8	R6/12/10 第6回 審議会	○第3次いなべ市総合計画基本構想（答申）
9	R6.12.16～ R7.1.15	○パブリックコメント
10	R7/2/中旬	○第3次いなべ市総合計画基本構想の議案提出

第3次総合計画基本構想の構成案

第2次総合計画（現行計画）の構成	第3次総合計画（次期計画）の構成（案）	
第1部 序論	第1部 基本構想	
第1章 計画の策定にあたって 第1節 計画策定の趣旨 第2節 計画の役割と位置づけ 第3節 計画の構成と目標年次 第2章 いなべ市の地域特性 第1節 位置・自然 第2節 歴史・沿革 第3節 人口・世帯の状況 第4節 産業の状況 第3章 まちづくりをとりまく背景 第1節 人口の予測 第2節 市民ニーズの状況 第3節 社会潮流の動向 第4章 まちづくりの主な課題 第1節 分野横断的な課題 第2節 分野別の課題	第1章 計画の策定にあたって 第1節 計画策定の趣旨 第2節 計画の役割と位置づけ 第3節 計画の構成と目標年次 第2章 いなべ市の地域特性 第1節 位置・自然 第2節 歴史・沿革 第3章 まちづくりをとりまく現状と課題 第1節 まちづくりの現状 第2節 市民ニーズの状況 第3節 まちづくりの課題と方向性 第4章 まちづくりの基本方針 第1節 まちづくりの基本理念 第2節 まちづくりの将来像 第5章 計画の基本フレーム 第1節 <u>人口推計と将来人口</u> 第2節 交流人口 第3節 <u>市民参画</u> 第4節 市民幸福度 第5節 財政フレーム 第6節 土地利用構想 第6章 施策の大綱 第1節 共通目標 第2節 基本目標 ※共通目標、基本目標は、限られた財源を効果的・効率的に活用するための行財政改革との一体的推進、近年の激しく変化する社会に対応可能な行政運営、SDGs、脱炭素社会、ウェルビーイング、災害の激甚化、DX化、嗜好の多様化、都市への人ロー極集中等を見据えて設定します	(10/3) 第4回審議会で 検討
第2部 基本構想		
第1章 まちづくりの基本方針 第1節 まちづくりの基本理念 第2節 まちづくりの将来像 第2章 計画の基本フレーム 第1節 将来人口 第2節 交流人口 第3節 協働のまちづくり 第4節 市民幸福度 第5節 財政フレーム 第6節 土地利用構想 第3章 施策の大綱 第1節 共通目標 第2節 基本目標		(11/6) 第5回審議会で 検討
第3部 人口ビジョン、総合戦略	第2部 人口ビジョン総合戦略部分	
第4部 基本計画	第3部 基本計画（各分野の施策）	
第5部 計画の推進にあたって	第4部 計画の推進にあたって	(12/10) 第6回審議会で 第3次総合計画 基本構想の答申
		※令和7年度で 検討・審議

第3次いなべ市総合計画 基本構想（案）

〈令和8（2026）年度～令和17（2035）年度〉

※統計データは、項目によっては最新値に更新となる場合がありますのでご了承ください。

令和6（2024）年9月現在
いなべ市

～ 目 次 ～

第1部 基本構想

第1章 計画の策定にあたって.....	1
第1節 計画策定の趣旨.....	1
第2節 計画の役割と位置づけ.....	1
第3節 計画の構成と目標年次.....	2
1 基本構想.....	2
2 基本計画.....	2
3 実施計画.....	2
第2章 いなべ市の地域特性.....	3
第1節 位置・自然.....	3
第2節 歴史・沿革.....	3
1 いなべ市の誕生まで.....	3
2 新制「いなべ市」としての20年.....	3
第3章 まちづくりをとりまく現状と課題.....	6
第1節 まちづくりの現状.....	6
1 人口世帯の現状.....	6
2 交流人口の現状.....	8
3 産業の状況.....	9
第2節 市民ニーズの状況.....	10
1 いなべ市の住みやすさについて.....	11
2 市民活動、市民団体活動、企業活動について.....	12
3 定住意向.....	13
4 施策の重要度、満足度.....	14
5 いなべ市民の幸福度.....	15
6 いなべ市への誇りや愛着.....	15
7 いなべ市の魅力と将来の姿について.....	16
8 近年のいなべ市の取り組みについて.....	18
第3節 まちづくりの課題と方向性.....	19
1 豊かな自然環境を守り、活かすまちづくり.....	19
2 人口減少社会を前提としたまちづくり.....	19
3 持続可能なまちづくり.....	20
4 デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進.....	20
5 こどもまんなか社会の推進.....	21
6 安心安全のまちづくり.....	21
7 協働のまちづくり.....	21
8 激しい変化が前提のまちづくり.....	21
9 効果的な行財政運営.....	22
10 シビックプライドの醸成.....	22
第4章 まちづくりの基本方針.....	23
第1節 まちづくりの基本理念.....	23
第2節 まちづくりの将来像.....	24

第1部 基本構想

第1章 計画の策定にあたって

第2章 いなべ市の地域特性

第3章 まちづくりをとりまく現状と課題

第4章 まちづくりの基本方針

第5章 計画の基本フレーム（※次回の第5回計画審議会で検討）

第6章 施策の大綱（※次回の第5回計画審議会で検討）

第1章 計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨

いなべ市（以下、本市という。）では、平成28（2016）年3月に「第2次いなべ市総合計画（以下、「第2次総合計画」という。）」を策定し、10年後の目指す将来像に「住んでいい！来ていい！活力創生のまち いなべ」を掲げ、この実現に向けて各分野の施策を推進してきました。

「第2次総合計画」の期間中においては、全国的な人口減少や都市部への人口集中が進行する中、東海環状自動車道の開通や企業誘致等の効果により、本市では人口減少の抑制に一定の成果を上げることができました。

今後は、人口減少及び激しさを増す社会の変化を前提に、多様性や持続可能性が担保され、デジタル化の急速な進展や頻発する自然災害にも対応可能なまちづくりを、地方の実情に応じた選択と集中により推進することが必要となっています。

こうしたなか、「第2次総合計画」が令和7（2025）年度に期間満了を迎えることから、新たなまちづくりの指針として、総合的かつ計画的な市政運営を図るべく、「第3次いなべ市総合計画（以下、「本計画」という。）」を策定します。

第2節 計画の役割と位置づけ

本計画は、平成26（2014）年4月1日に施行された「いなべ市総合計画条例」に基づいて策定するものです。総合計画は、本市の行政運営における最上位計画であり、市民と行政が共通してめざす10年後の将来像を掲げ、長期的なまちづくりの方向性を示すものです。

また、市民や地域、団体、企業においては、本計画を共通の目標として、市政に対する理解及び協力並びに積極的な参加を期待するとともに、国や県に対しては、計画の実現に向けた支援と協力を要請します。

第3節 計画の構成と目標年次

1 基本構想

市の将来像及びこれを達成するための施策の大綱を示したものです。

計画期間は令和8（2026）年度から令和17（2035）年度までの10年間です。

2 基本計画

基本構想をふまえた市政の基本的な計画で、施策の基本的な方向及び体系を示します。

計画期間は、前期基本計画が令和8（2026）年度から令和12（2030）年度まで、後期基本計画は令和13（2031）年度から令和17（2035）年度までの各5年間です。

3 実施計画

基本計画をふまえた市政の具体的な計画で、施策を実現するための事業に関する計画です。

3か年の短期計画で、基本計画との調整を図る事業計画とし、本計画とは別にローリング方式により毎年作成します。

■第3次いなべ市総合計画の計画期間

令和8（2026）年度～令和12（2030）年度	令和13（2031）～令和17（2035）年度
基本構想【10年】	
前期基本計画【5年】	後期基本計画【5年】
実施計画（3年計画で毎年ローリング）▶▶▶	

第2章 いなべ市の地域特性

第1節 位置・自然

本市は、北部で岐阜県と西部で滋賀県に接し、東部で桑名圏域と南部で四日市圏域に接しており、名古屋からは自動車及び電車で約1時間の立地にあります。また、平成31（2019）年3月には岐阜県と三重県を南北に結ぶ東海環状自動車道の大安ICが開通し、企業活動の活性化や交流人口の増加等が期待されています。

市域は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈をいだき、市のほぼ中央を流れる員弁川を挟んで緑豊かな自然と平野に囲まれています。なかでも、鈴鹿国定公園内にある藤原岳は全国でも屈指の「花の山」として年中登山客が絶えることなく、同公園内の竜ヶ岳にある宇賀溪も鈴鹿の滝の景勝地として知られています。

第2節 歴史・沿革

1 いなべ市の誕生まで

本市を構成する北勢地区、員弁地区、大安地区、藤原地区は、古くから地形的にも文化的にも密接に交流し、純農村地帯として栄えてきました。

市名である「いなべ」は、約1,300年以上前の奈良時代に始まり、当地域には物部氏の支系・猪名部族が居住していたことから、郡名が「猪名部」と名づけられました。その後「員弁」と表記されるようになりましたが、その歴史の長さが裏づけられています。

本地域は旧藩政時代の一時期を除いて桑名藩に属し、明治4（1871）年の廃藩置県以降、安濃津県（その後三重県と改称）に属しました。

明治22（1889）年の町村制の施行を経て、昭和28（1953）年の町村合併促進法が施行された当時、本地域は2町12村ありましたが、その後、合併が繰り返され、昭和30年代から40年代にかけて北勢町、員弁町、大安町、藤原町が誕生しました。

平成15（2003）年12月1日には、員弁郡4町（北勢町、員弁町、大安町、藤原町）による新設合併で「いなべ市」が誕生しました。

2 新制「いなべ市」としての20年

（1）第1次総合計画

本市では、市町村合併後から約2年の期間をかけて、平成18（2006）年度から平成27（2015）年度を計画期間とする「第1次いなべ市総合計画（※以下、第1次総合計画という）」を策定し、『安心・元気・思いやりがまちの宝物 いきいき笑顔応援のまち いなべ』を将来像に掲げ、市民や地域、関係機関との協働により、市民を主役としたまちづくりに取り組んできました。

平成19（2007）年には、「いなべ市行政改革大綱に関する答申」（平成19（2007）年8

月)に基づき、「第1次いなべ市行政改革大綱」を策定し、1「パートナーシップのまちづくり」、2「簡素で効率的な行政システムの構築」、3「効果的で効率的な財政運営の実現」という3つの基本方針のもと、計25項目の改革を実施しました。第1次総合計画期間中の主な事項として、NPO、ボランティア、自主サークルの活動の拠点として市民活動センターの設置、着実な目標達成と効率的な行政運営のためのいなべ市行政体系(PDS サイクル※)の構築、検索性とセキュリティ性を高めるためファイリングシステムの構築、定員適正化計画に基づく人件費の削減、補助金・負担金の総点検、バスを除く公用車の適正配置、OA 機器の適正配置、デマンド監視装置による節電に取り組んできました。

平成22(2010)年度には、隣接する東員町と定住自立圏形成協定を締結し、「旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン」を策定しました。“光り輝く地域”を将来像とし、①生活機能の強化、②結びつきやネットワークの強化、③圏域マネジメント能力の強化の3つの柱をもとに連携を進めています。

合併当初は、認知度の低さが本市の大きな課題でした。有名な観光地や特産品が無いなか、全国に誇れる行政サービス「いなべブランド事業」に取り組み、品質が高く内外から高い評価が得られる事業を創造し発信することで、市民の満足度向上や市に対するイメージのアップを図りました。平成23(2011)年度から正式に「いなべブランド事業」の認定を開始し、これまでに、平成27年に「第3回健康寿命をのばそう！アワード」で「厚生労働大臣優秀賞」を受賞した「元気づくりシステム」や途切れのない発達支援システム「チャイルドサポート」など、30を超える事業をいなべブランド事業として認定してきました。

平成27(2015)年には、国が推進する地方創生を受け、「いなべ市総合戦略」を策定し、翌年に策定の「第2次総合計画」における重点プロジェクトとして位置付け、人口減少の抑制と地方創生に向けた積極的な取り組みを開始しました。

※PDS サイクル：計画(Plan)－実施(Do)－検証(See)というマネジメントサイクル(経営管理の機能の循環過程)

(2) 第2次総合計画

平成28(2016)年度から令和7(2025)年度までを計画期間とする「第2次総合計画」では、『住んでいーな！来ていーな！活力創生のまち いなべ』を将来像に掲げました。「定住人口」と「交流人口」の2つの「人口」に着目し、「住んでいーな！」「来ていーな！」を実感できるまちづくりに取り組みました。

平成26(2014)年には、「第2次いなべ市行政改革大綱に関する答申」(平成26(2014)年11月)に基づき、「第2次いなべ市行政改革大綱」を策定し、3つの基本方針のもと、計26項目の改革を実施しました。第2次総合計画期間中の主な事項として、市民活動の充実、コミュニティFMを活用した広報活動の充実、広報戦略基本方針に基づく広報体制の確立、行政評価の促進、法令遵守による行政執行の徹底、新庁舎建設による窓口サービスの充実、マイナンバー制度を活用した利便性の向上と経費の削減、情報システムの再構築による事務の効率化と経費の削減、受益者負担の適正化、公有財産の売却等の推進、企業誘致の推進に取り組んできました。

平成28(2016)年には、「いなべ市公共施設統廃合に関する答申」(平成21(2009)年

9月)に基づき、「いなべ市公共施設等総合管理計画」を策定し、人口減少や少子高齢化の進行や財政規模の縮小が想定されているなかで、公共施設等の老朽化に伴う更新需要に対応し、将来にわたって持続可能な行政サービスが展開できるよう、複数の重複・類似する公共建築物の統廃合に向けた取り組みを行ってきました。また、橋梁、上水道、下水道の各類型のインフラ施設についても長寿命化に向けた修繕を行ってきました。

平成29(2017)年には、新たなまちづくりの視点として「グリーンクリエイティブいなべ」を掲げました。市民の誇りである自然とその延長上にある農や食、さらには、アウトドア、アート、ものづくり等の資源を「グリーン」と定義し、これらを活かし人々を魅了するモノ・コト・トキを創造する取り組みです。

平成31(2019)年には新市庁舎が完成し、その敷地内に、飲食店など5店舗が入る「にぎわいの森」を整備し、グリーンクリエイティブいなべ推進事業の核として、にぎわいの創出や交流人口の拡大に取り組んできました。また、同年には、東海環状自動車道大安インターチェンジが開通し、企業活動の活性化や交流人口の増加につながっています。

令和元(2019)年には、日本の自治体では6番目となる「フェアトレードタウン」の認定、令和2(2020)年には、「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」の選定、令和4(2022)年には、「ゼロカーボンシティ」を表明し、「チャレンジ・カーボンニュートラル いなべ」を掲げるとともに、これらの取り組みを通じて、グリーンクリエイティブいなべ推進事業との相乗効果の創出を図りながら、『住んでいいな！来ていいな！活力創生のまち いなべ』の実現に向けた取り組みを推進しました。

令和6(2024)年度には、隣接する菰野町と定住自立圏形成協定を締結し、3市町(いなべ市、東員町、菰野町)で新たな圏域を形成し、「いいとこ定住自立圏共生ビジョン」を策定し、“地域の誇りを共に感じるまち”を将来像とし、3つの柱をもとに連携を進めています。

(3) 市制施行20年を振り返って

第1次総合計画の期間中に、日本では人口減少社会が到来し、平成20(2008)年をピークに、平成23(2011)年以降、日本の総人口は減少が続いています。こうした状況のなか、本市では、自動車産業を中心とした企業誘致の成功が大きな雇用と税収をもたらし、人口減少の抑制にも一定の成果を上げてきました。この間、平成20(2008)年のリーマンショックによる世界的な金融危機や、令和元年(2019)年に発生した新型コロナウイルス感染症等の影響もありましたが、堅調な自動車産業に支えられながら、地方創生における新たな産業の創出や魅力向上に向けた投資的な取り組みにも着手することができました。

また、第1次総合計画、第2次総合計画の期間中は、235.2億円の合併特例債を活用し、公共施設の統合を行いながら、新庁舎やにぎわいの森等の施設整備を進めることができました。今後、第3次総合計画においては、こうした大きな財源が無いなか、選択と集中による効果的な行財政運営のもと、いなべブランド事業を中心に磨き上げてきた魅力なサービスや市民協働による地域活動の維持・発展とともに、地方創生で投資的に取り組んできた取り組みを通じた、新たな雇用創出や本市の魅力の向上、市民のまちに対する誇りの醸成等につなげていく必要があります。

第3章 まちづくりをとりまく現状と課題

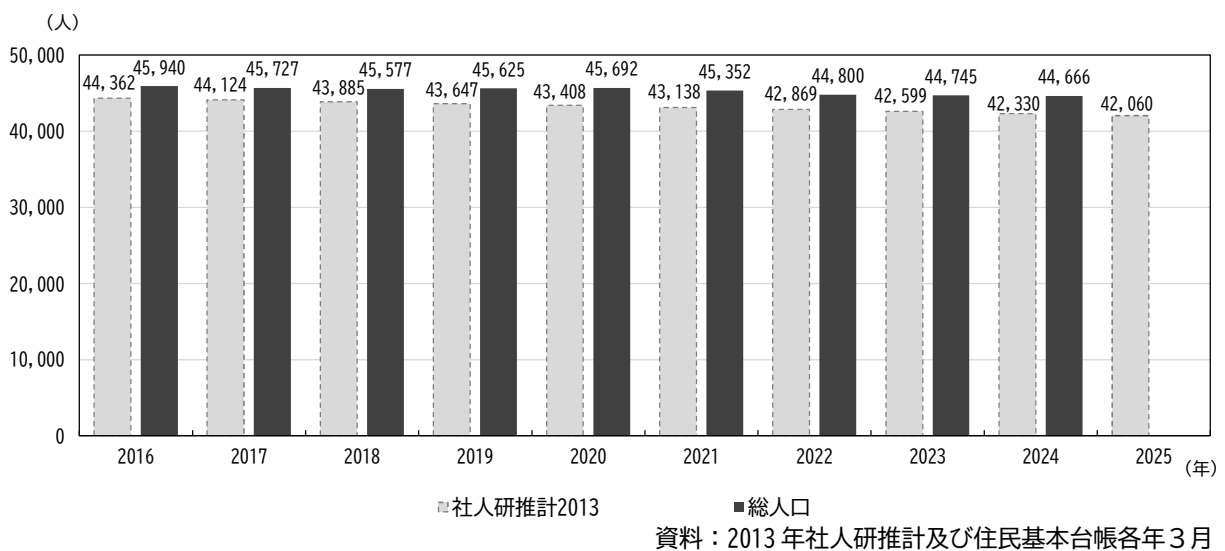
第1節 まちづくりの現状

1 人口世帯の現状

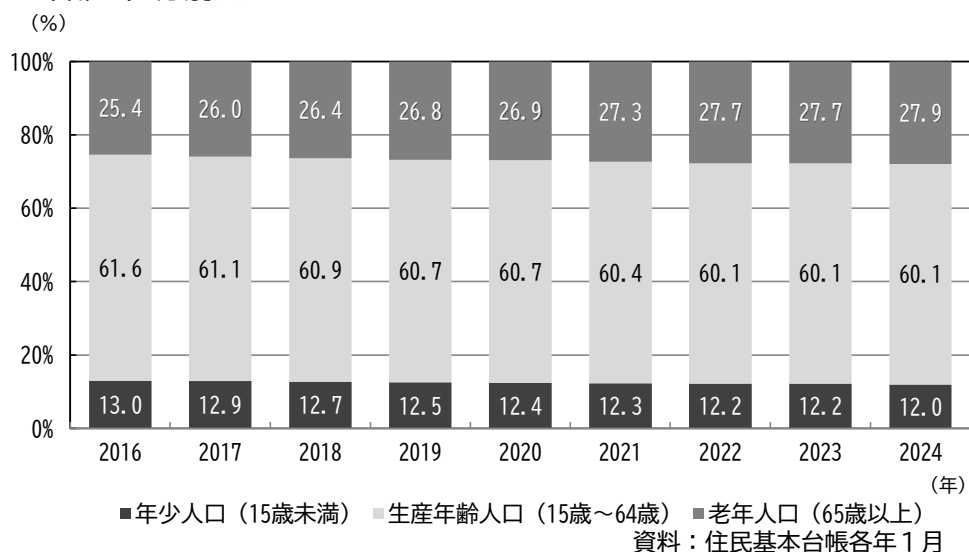
本市の人口は、令和6（2024）年3月現在で44,666人となっており、平成25（2013）年に国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）が公表した本市の令和7（2025）年の人口推計42,060人を上回っています。自動車産業を中心とする企業誘致の成功が影響しており、同様に年齢別人口の推移でも生産年齢人口において人口減少が抑制されています。

また、世帯の状況では、平成28（2016）年と令和6年（2024年）を比べると、世帯数が約1割増加する一方で、1世帯当たりの人員数は約1割の減少となっています。

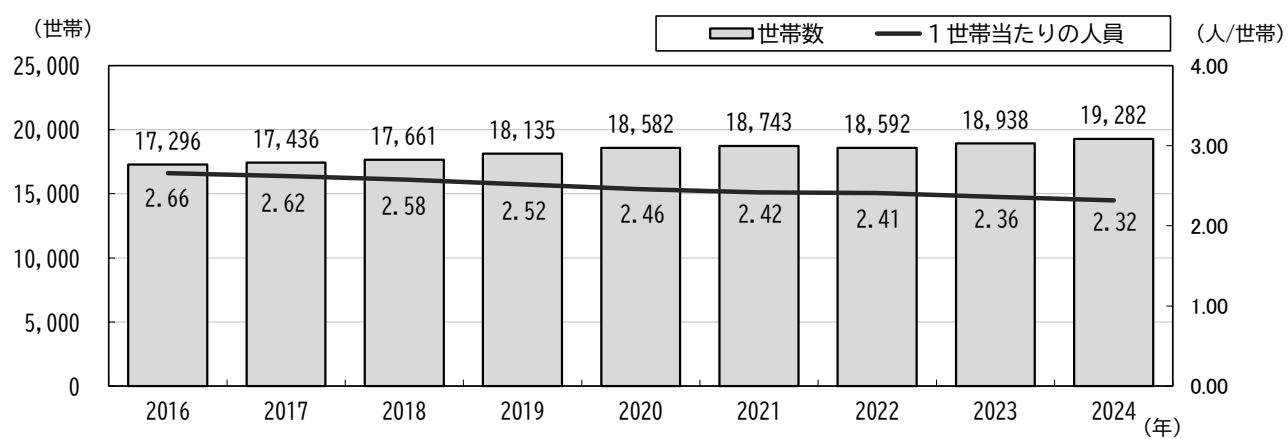
■第2次総合計画策定時の人口推計と総人口の推移



■年齢3区分別人口



■世帯数と1世帯当たりの人員



資料：住民基本台帳各年3月

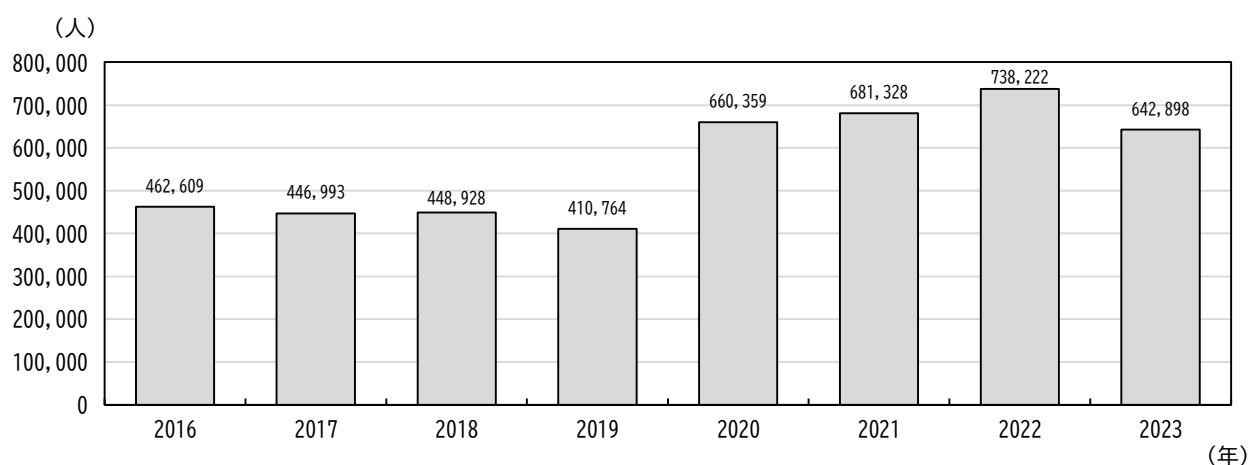
2 交流人口の現状

(1) 観光交流人口

観光交流人口は、平成2（2020）年を境に大きく増加しています。主な要因は「にぎわいの森」で、開設から4年間の平均集客数は約35万5千人となっています。

観光分野は、インバウンドを中心に国でも注力されており、本市においてもまちの特性を活かし、様々なモノ・コト・トキの磨き上げを通じて、観光振興をより一層進める必要があります。

■観光交流人口（観光レクリエーション入込客数）



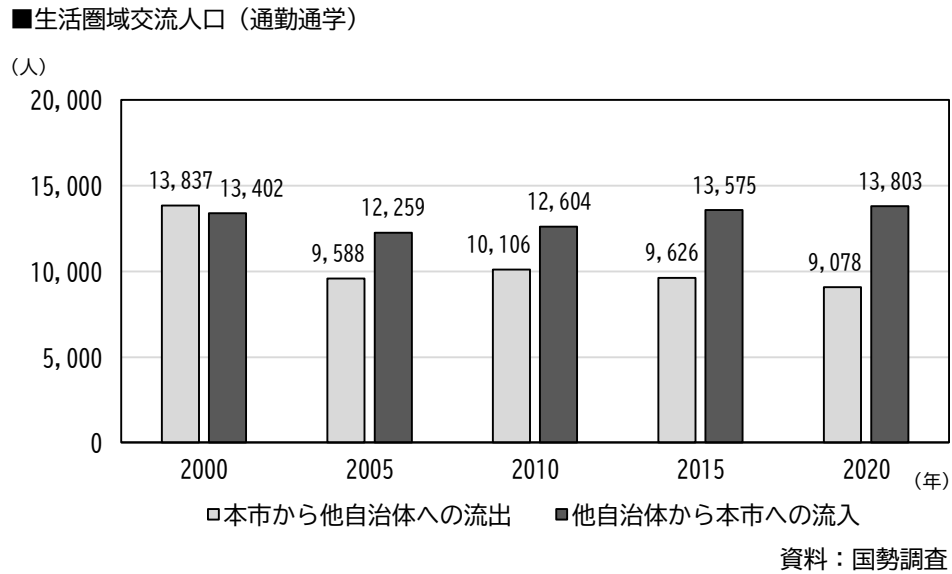
■観光交流人口（観光レクリエーション入込客数）の内訳

項目	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
藤原岳	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
いなべ梅まつり	83,832	77,043	84,350	45,305	-	-	80,000	76,700
いなべたんまつり	11,298	11,542	8,993	10,330	-	-	-	-
TOJいなべステージ	20,000	22,000	23,000	20,000	-	-	-	16,000
あげきのおひなさん	16,942	13,989	15,093	5,443	-	-	-	-
パークゴルフ場	14,279	13,061	11,299	12,528	10,338	10,422	12,178	10,676
竜ヶ岳（宇賀溪を含む）	26,700	32,943	37,999	43,269	46,532	44,840	50,746	42,212
青川峡キャンプパーク	40,860	46,261	45,636	51,914	45,839	47,520	39,600	35,164
いなべ公園	56,041	46,552	41,052	45,192	64,390	59,430	48,350	51,500
阿下喜温泉あじさいの里	137,209	127,105	122,718	126,783	88,636	95,495	104,659	21,564
にぎわいの森	-	-	-	-	354,624	373,621	352,689	339,082
聖宝寺もみじ祭り	5,448	6,497	8,788	-	-	-	-	-
合計	462,609	446,993	448,928	410,764	660,359	681,328	738,222	642,898

資料：いなべ市

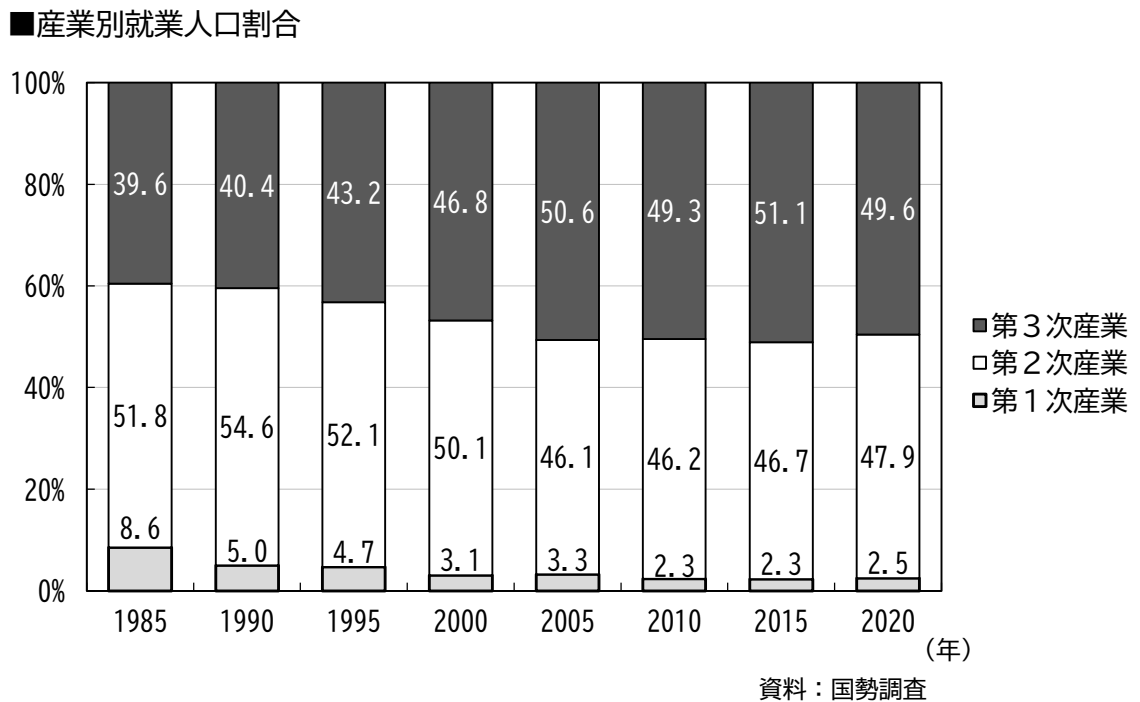
(2) 生活圏域交流人口

生活圏域交流人口をみると、平成 12（2000）年以降、本市から他自治体への流出は減少傾向にあります。また、他自治体から本市への流入は、平成 12（2000）年から平成 17（2005 年）にかけて減少したものの、平成 27（2015）年、令和 2（2020）年では平成 12（2000）年の水準に回復傾向となっています。



3 産業の状況

産業別就業人口割合をみると、第 2 次産業、第 3 次産業がそれぞれ約 5 割の割合で推移しています。第 1 次産業の割合は微減の傾向でしたが令和 2（2020）年に微増に転じています。



第2節 市民ニーズの状況

本計画の策定にあたり、市民をはじめとする多様な主体の意見を計画に反映するため、令和6年（2024）年度において各種調査を実施しました。

■各種調査の概要

市民満足度調査
・調査期間：令和6年6月～7月 ・調査方法：郵送による配布、回収は郵送及びWEB ・対象者、回収結果：20歳以上の市民3,000名、回収数1,301件【郵送1,075件WEB226件】（回収率43.4%）
小学生調査
・調査期間：令和6年9月 ・配布回収：学校を通じて依頼（WEBでの回答） ・対象者、回収結果：市内小学4～6年生1,097名、回収数1,094件（回収率99.7%）
中学生、高校生調査
・調査期間：令和6年6月～7月 ・調査方法：学校を通じて依頼（WEBでの回答） ・対象者、回収結果：市内の中学2生376名、回収数341件（回収率90.7%） いなべ総合学園1年生279名、回収数68件（回収率24.4%）
事業所調査
・調査期間：令和6年6月～7月 ・調査方法：郵送による配布（一部商工会を通じて配布）、回収は郵送及びメール ・対象者、回収結果：市内事業所96事業所、回収数53件（回収率55.2%）
市民活動団体調査
・調査期間：令和6年6月～7月 ・調査方法：郵送による配布、回収は郵送及びメール ・対象者、回収結果：市登録の活動団体141団体、回収数51件【郵送38件、メール13件】（回収率36.2%）
高校生ワークショップを通じた意見聴取
・調査期間：令和6年6月5日 ・調査方法：いなべ総合学園の各教室でリモート実施（WEBでのワークショップ） ・参加者：いなべ総合学園1年生279名、シート回収数279件（回収率100.0%）

※以降の調査結果の記載について

- ・「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する方）の値を表しています。
- ・「SA（Single Answer）」は、単数回答（質問に対して複数の選択肢から1つの回答を選択）を、「MA（Multiple Answer）」は、複数回答（質問に対して複数の選択肢から複数の回答を選択）を表しています。
- ・

1 いなべ市の住みやすさについて

市民満足度調査では、「住みやすい」と感じる市民は約7割で、前回調査と比べると微減となっています。中学生、高校生調査では「住みやすい」と感じる割合は9割を超え、中学生調査は前回調査と比べると約2割の増加となっています。住みやすいと感じる理由では「自然に恵まれている」「人情」がどの調査でも上位となっています。一方、「住みにくい」と感じる理由では「交通事情や交通の便」「買い物に不便だから」「通勤・通学に不便だから」が上位となっており、交通面に関する回答が多くなっています。

今後も市民の住みやすさの実感を維持向上させるとともに、自然や人情といった強みを活かしつつ、交通面における住みにくさの改善を図る必要があります。

(1) 住みやすさ（市民満足度調査、中学生調査、高校生調査より）

- ・市民満足度調査では「住みやすい※」が67.4%（前回比-1.2%）となっています。
※「住みやすい」：「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計値。以下同様。
- ・中学生調査では「住みやすい」が91.1%（前回比+16.3%）となっています。
- ・高校生調査では「住みやすい」が90.9%（前回調査無し※以下同様）となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）、中学生調査（N=337）、高校生調査（N=68）【各調査 SA】

(2) 住みやすいと感じる理由（市民満足度調査、中学生調査、高校生調査より）

- ・市民満足度調査では「自然に恵まれているから」が77.3%（前回比-3.3%）と最も高く、次いで「友人・知人が多いから」が48.2%（前回比-2.6%）、「住民が親切で人情味があるから」が33.0%（前回比-2.1%）となっています。
- ・中学生調査では「豊かな自然に恵まれている」が93.8%（前回比+8.1%）と最も高く、次いで「人情や気風が良い」が51.8%（前回比+3.6%）、「スポーツ活動や文化活動を楽しむ環境が充実している」が43.6%（前回比+14.7%）となっています。
- ・高校生調査では「豊かな自然に恵まれている」が89.4%と最も高く、次いで「道路や公共交通機関が整備されていて便利である」が53.2%、「人情や気風が良い」が46.8%となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=876）、中学生調査（N=307）、高校生調査（N=47）【各調査 MA】 「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した方

(3) 住みにくいとを感じる理由（市民満足度調査より）

- ・市民満足度調査では「交通事情や交通の便がよくないから」が78.4%（前回比-1.4%）と最も高く、次いで「買い物に不便だから」が56.0%（前回比-3.2%）、「通勤・通学に不便だから」が47.8%（前回比-2.8%）となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=232）【MA】「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と回答した方

2 市民活動、市民団体活動、企業活動について

市民満足度調査では、まちづくり活動への参加意向が減少傾向にあります。価値観の多様化や余暇時間の選択肢の増加等の影響が予測されますが、地域力の維持・向上のためにも多様な視点からまちづくり活動への参加促進を図る必要があります。

市民活動団体の活動については現状維持が約8割、拡大が約2割となっていますが、「担い手の高齢化」「担い手の不足」「利用者・参加者の高齢化」等、高齢化に関わる課題が多くあげられており、活動主体者や参加者のすそ野を広げることが重要となっています。

企業活動については、「行いやすい」が約6割となっており、『いなべ市の良い面』では、「災害や治安の面で心配がない」が約7割と最も高くなっています。一方で、「地価や人件費が安い」が約2割で前回調査から約2割の減少となっており、『いなべ市の悪い面』では「従業員の確保がむずかしい」が約7割と最も高く、企業の人件費や従業員確保への課題意識が強くなっていることが見受けられます。

(1) まちづくり活動について（市民満足度調査より）

- ・市民満足度調査では「参加したい※」が32.2%（前回比-0.9%）となっています。
- ※「参加したい」：「積極的に参加したい」「できるだけ参加したい」の合計値
- ・「参加したい」は経年でみても減少傾向にあります。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）【SA】

問23 あなたは、まちづくり活動に対する市民参画の機会がある場合、参加したいと思いますか。（SA）

No.	選択肢	H26(%)	R1(%)	R6(%)	R1⇒R6比較
1	積極的に参加したい	2.9	2.6	3.7	1.1
2	できるだけ参加したい	36.1	30.5	28.5	-2.0
3	参加したいと思うが参加できない	26.6	28.4	25.9	-2.5
4	参加したいとは思わない	15.4	18.5	20.3	1.8
5	わからない	14.1	15.1	18.5	3.4
6	その他	0.7	0.8	0.6	-0.2
	不明・無回答	4.2	4.1	2.5	-1.6
	サンプル数	N=1,493	N=1,446	N=1,301	—

(2) 市民活動団体の活動について（市民活動団体調査より）

- ・『今後の活動の方向性』では「現状維持」が78.4%と最も高く、次いで「拡大」が21.6%となっています。
- ・『活動における課題』では「担い手の高齢化」が49.0%と最も高く、次いで「担い手の不足」が47.1%、「活動資金が足りない」及び「利用者・参加者の高齢化」が29.4%となっています。

▶▶▶ 市民活動団体調査（N=51）【MA※複数の分野で活動する団体があるため】

(3) 企業活動について（事業所調査より）

- ・「企業活動が行いやすい※」が58.5%（前回比+5.3%）となっています。
※「企業活動が行いやすい」：「企業活動が行いやすい」「どちらかといえば企業活動が行いやすい」の合計値
- ・『いなべ市の良い面』では、「災害や治安の面で心配がない」が66.0%（前回比+19.2%）と最も高くなっています。また、「地価や人件費が安い」が17.0%で前回調査から19.2%減少しています。
- ・『いなべ市の悪い面』では、「従業員の確保がむずかしい」が73.6%（前回比+1.3%）と最も高くなっています。また、「交通が不便である」が32.1%で前回調査から16.8%減少しています。

▶▶▶ 市民活動団体調査（N=53）「企業活動が行いやすいか」【SA】、「良い面、悪い面」【MA】

3 定住意向

定住意向については「ずっと住みたい」が市民で約6割、中学生で約2割、高校生で約3割となっています。また、「どのような条件が整えばこれからはいなべ市に住みたいか（「他市に移り住みたい」と回答した方）」では、交通面での回答が多くなっています。

市民の定住意向の維持・増加を図るとともに、中学生、高校生についても一度は市外に出ても帰って来たいと思えるまちづくりが必要です。

(1) 定住意向について（市民満足度調査、中学生、高校生調査より）

- ・市民満足度調査では、「ずっと住みたい」が58.8%（前回比-1.5%）となっています。
- ・中学生調査では、「できればずっと住みたい」が21.1%（前回比-1.9%）となっています。
- ・高校生調査では「できればずっと住みたい」が27.3%となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）、中学生調査（N=337）、高校生調査（N=22）【各調査 SA】

(2) どのような条件が整えばこれからはいなべ市に住みたいか（市民満足度調査より）

- ・「交通・通勤の利便性のよさ」が60.6%（前回比-7.2%）と最も高く、次いで「日ごろの買い物の便利さ」が50.0%（前回比-1.3%）、「福祉・医療施設の利用のしやすさ」が31.9%（前回比-8.1%）となっています。また、「就労の場があること」が7.4%で、前回から16.9%減少、「価格や広さなど住宅事情のよさ」が10.6%で前回から8.9%増加しています。

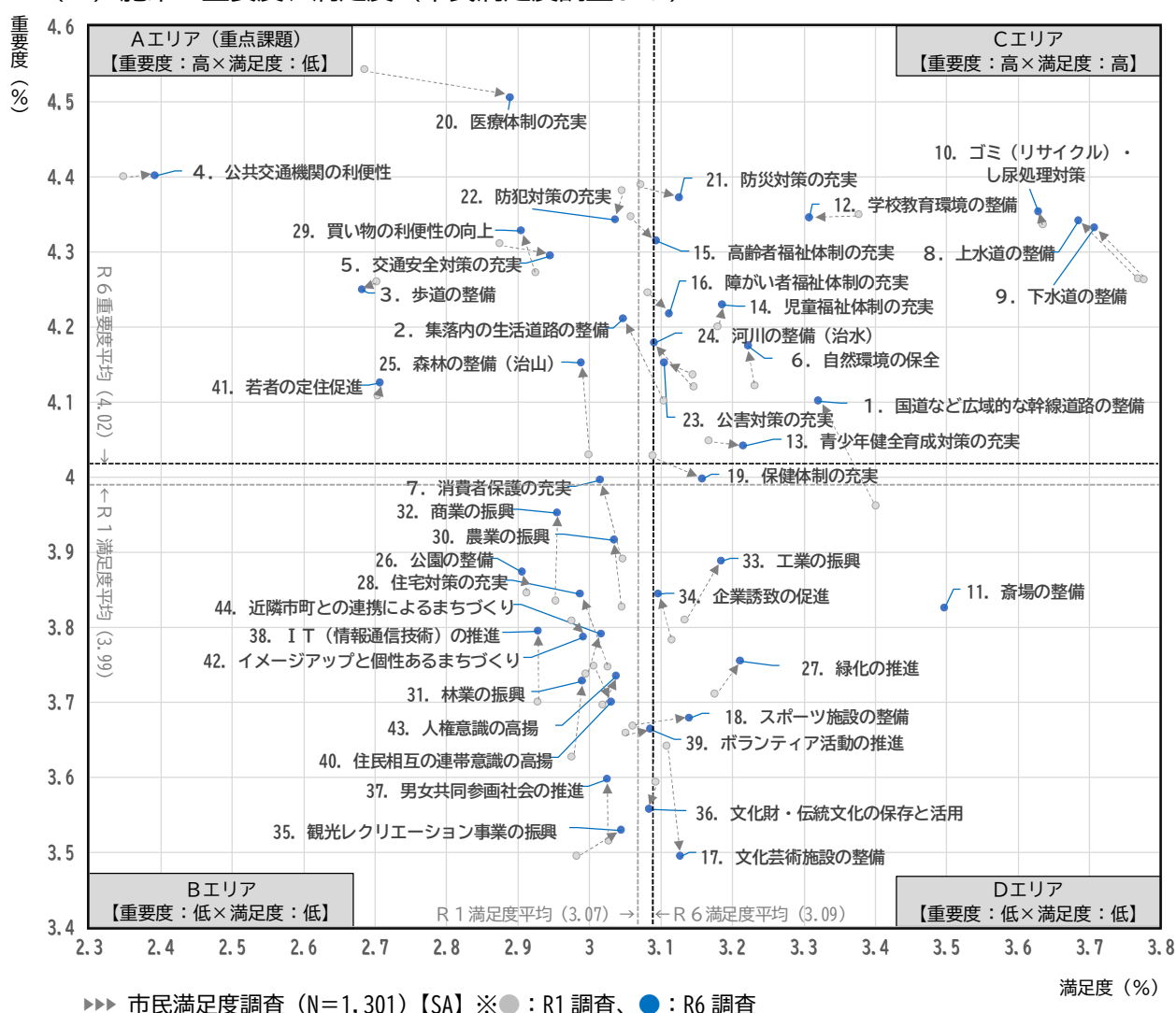
▶▶▶ 市民満足度調査（N=94）【MA】「他市に移り住みたい」と回答した方

4 施策の重要度、満足度

重要度が平均点よりも高く、かつ満足度が平均点よりも低い「重点課題項目」は、「2.集落内の生活道路の整備」「3.歩道の整備」「4.公共交通機関の利便性」「5.交通安全対策の充実」「20.医療体制の充実」「22.防犯対策の充実」「25.森林の整備（治山）」「29.買い物の利便性の向上」「41.若者の定住促進」となっています。特に道路、交通に関連する施策が多くあげられており、限られた財源のなか、選択と集中による効果的な対策が必要となっています。

高校生ワークショップの『関心のある分野』では「スポーツ」が約4割と最も高く、次いで「観光」「自然」が約3割となっています。「スポーツ」「観光」は、市民満足度調査での重要度は低くなっていますが、若者の関心の高い分野であることから、効果的に取り組みを推進する必要があります。

(1) 施策の重要度、満足度（市民満足度調査より）



(2) 高校生が関心のある分野（高校生ワークショップより）

・『関心のある分野』では「スポーツ」が38.4%と最も高く、次いで「観光」が29.4%、「自然」が25.1%となっています。

▶▶▶ 高校生ワークショップ (N=279)

5 いなべ市民の幸福度

幸福度は市民が平均 6.60 点、中学生が平均 7.62 点、高校生が 6.94 点となっています。幸福度は社会情勢の影響等も反映されるものですが、まちづくりにおいても市民の幸福度の実感が増加するよう、各種の取り組みを進める必要があります。

(1) 幸福度について（市民満足度調査、中学生、高校生調査より）

- ・市民満足度調査では、幸福度の平均は 6.60 点（前回比－0.07 点）となっています。
- ・中学生調査では、幸福度の平均は 7.62 点（前回比＋0.21 点）
- ・高校生調査では、幸福度の平均は 6.94 点となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）、中学生調査（N=341）、高校生調査（N=68）【各調査 SA】
10 点（とても幸せ）～0 点（とても不幸）とした

(2) 幸せであるために重要なこと（市民満足度調査、中学生、高校生調査より）

- ・市民満足度調査では、「自分や家族の健康状況」が 81.9%（前回比＋4.0%）と最も高く、次いで「家計（所得・消費）の状況」が 78.6%（前回比＋6.5%）、「家族関係」が 67.6%（前回比＋5.9%）となっています。
- ・中学生調査では、「友人関係」が 82.4%（前回比＋20.4%）と最も高く、次いで「健康」が 69.8%（前回比＋8.0%）、「自由な時間」が 57.2%（前回比＋9.6%）となっています。
- ・高校生調査では、「健康」が 70.6%と最も高く、次いで「友人関係」が 69.1%、「家族関係」が 48.5%となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）、中学生調査（N=341）、高校生調査（N=68）【各調査 SA】

6 いなべ市への誇りや愛着

「愛着」を「感じている」が市民満足度調査では約 6 割、中学生調査では約 8 割、高校生調査では、いなべ市民の高校生に限定すると約 9 割となっています。市民満足度調査では「愛着」を「感じている」は微減傾向ですが、中学生調査は増加傾向となっており、市民の愛着を維持・増加させるとともに、今後も若者が愛着を感じ続けることができるような魅力あるまちづくりを進める必要があります。

(1) 誇りや愛着について（市民満足度調査、中学生、高校生調査より）

- ・市民満足度調査では、「愛着」を「感じている」が 60.1%（前回比－3.0%）となっています。
- ・中学生調査では、「愛着」を「感じている」が 80.1%（前回比＋9.5%）となっています。
- ・高校生調査では、「愛着」を「感じている」が 55.9%（いなべ市民の高校生に限定すると 86.4%）となっています。
- ・経年で見ると、市民満足度調査では「愛着」を「感じている」は微減傾向、中学生調査は増加傾向となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）、中学生調査（N=341）、高校生調査（N=68※いなべ市民は N=22）【各調査 SA】

■市民満足度調査

問9 いなべ市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感ずますか。(SA)

No.	選択肢	H26(%)	R1(%)	R6(%)	R1⇒R6比較
1	感じている	66.5	63.1	60.1	-3.0
2	感じていない	8.3	8.4	9.4	1.0
3	どちらともいえない	23.8	27.0	28.8	1.8
	不明・無回答	1.4	1.4	1.7	0.3
サンプル数		N=1,493	N=1,446	N=1,301	—

■中学生、高校生調査

問6 いなべ市に愛着、親しみを感ずますか。(SA)

※中学生：H26 (N=431)、R1 (N=374)

No.	No.	選択肢	H26(%)	R1(%)	R6(%)	R1⇒R6比較
中学生 N=341	1	感じている	58.5	70.6	80.1	9.5
	2	感じていない	7.7	6.1	4.4	-1.7
	3	どちらともいえない	31.8	21.7	15.5	-6.2
		不明・無回答	2.1	1.6	0.0	-1.6

7 いなべ市の魅力と将来の姿について

市民満足度調査では、1位が「自然・山・川」、2位が「大企業・企業」、3位が「アウトドア」となっています。また、中学生、高校生調査では、1位が「にぎわいの森」、2位が「自然」、3位が「八幡祭」となっています。

市民満足度調査の「将来どのようなまちになってほしいか」では、「医療が充実したまち」「高齢になっても生きがいを持って暮らせるまち」「若者にとって魅力的なまち」がそれぞれ約4割と高くなっています。

小学生調査の「10年後、自分自身がどうなっていたら幸せと思うか」では、家族に関する内容（家族と一緒に、家族が幸せ、家族が健康 等）が最も多くあげられています。次いでお金に関する内容（お金持ち、お金の困らない 等）、友達に関する内容（友達がたくさん、友達と仲良く 等）、野球（プロ野球選手、メジャーリーガー 等）、優しさに関する内容（優しい大人、人に優しくする 等）、サッカー（プロサッカー選手 等）といった回答が多くみられました。子どもたちが将来に希望を持ち、幸せに暮らすことのできるまちづくりが必要です。

（1）いなべ市の魅力について（市民満足度調査、中学生、高校生調査より）

■市民満足度調査

- 1位 自然・山・川
- 2位 大企業・企業
(トヨタ車体・デンソー含む)
- 3位 アウトドア
(キャンプ、青川峡、宇賀溪含む)
- 4位 梅林公園・農業公園
- 5位 イベント(個別の記載は含まず)
- 6位 特産品(個別の記載は含まず)
- 7位 施設(個別の記載は含まず)
- 8位 お茶・石博茶
- 8位 にぎわいの森
- 10位 そば・そば祭り

▶▶ 市民満足度調査 (N=1,301)

■中学生、高校生調査

- 1位 にぎわいの森
- 2位 自然
- 3位 八幡祭
- 4位 お茶、かぶせ茶、石博茶、お茶が美味しい
- 5位 祭、花火大会
- 6位 さくらパーク
- 6位 空気がきれい、美しい
- 8位 西田有志(バレーボール選手)
- 9位 人、地域の人優しい
- 10位 三岐鉄道、北勢線

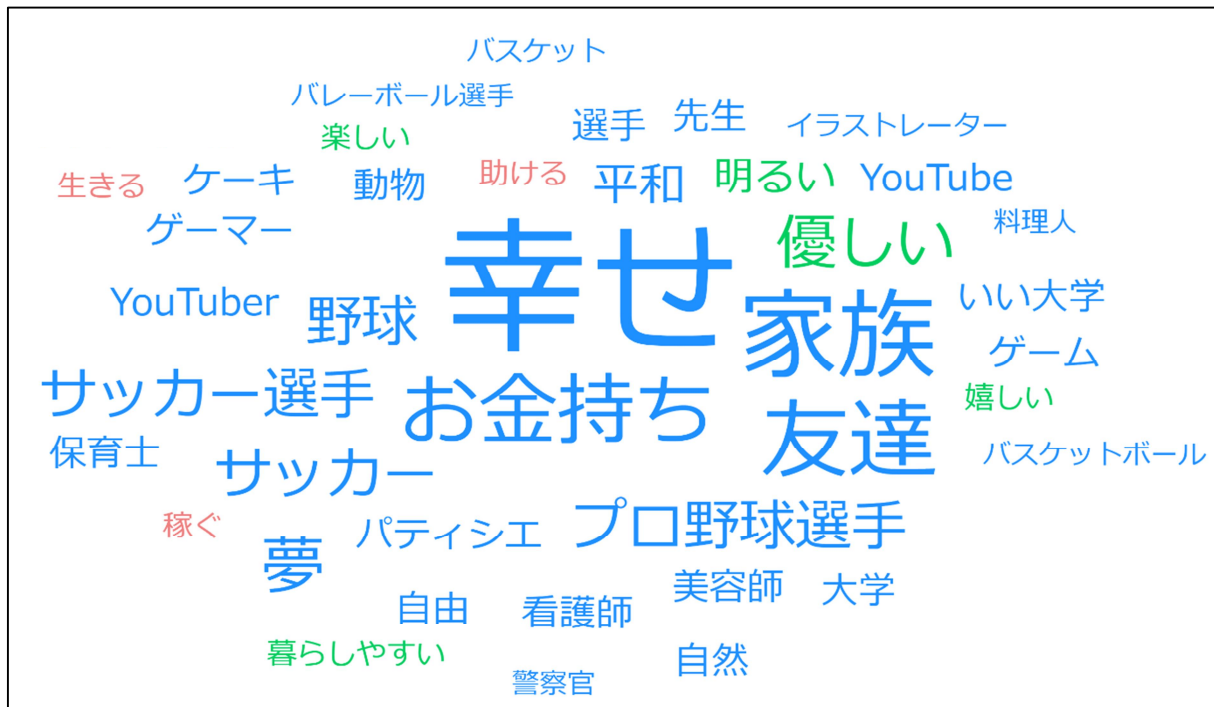
▶▶ 中学生、高校生調査 (N=409)【記述式】

(2) 将来どのようなまちになってほしいか（市民満足度調査より）

・市民満足度調査では、「医療が充実したまち」が40.9%（前回比-6.3%）と最も高く、次いで「高齢になっても生きがいを持って暮らせるまち」が40.7%（前回比-7.8%）、「若者にとって魅力的なまち」が35.1%（前回比±0%）となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）【MA】

(3) あなたは10年後、自分自身がどうなっていたら幸せと思うか（小学生調査より）



▶▶▶ 小学生調査（N=1,094）【記述式】キーワード分析（出現頻度順）

8 近年のいなべ市の取り組みについて

近年の主な取り組みの認知度は、SDGsが最も高くなっていますが、それ以外の取り組みの認知度は5割以下となっています。これらは社会潮流においても重要な取り組みであるため、各種活動の一層の推進とともに、市民に対する周知啓発を進める必要があります。

(1) SDGs 未来都市及びSDGsの取り組みの認知度（市民満足度調査より）

・「名前も内容も知っている」が36.9%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が38.4%、「知らない」が22.9%となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）【SA】

(2) SDGsの取り組みを行っているか（事業所調査より）

・「行っている（HPや会社案内等の媒体で紹介している）」が41.5%、「行っている（HPや会社案内等の媒体で紹介はしていない）」が28.3%、「行っていない（今後行う予定がある）」が11.3%、「行っていない（今後も行う予定はない）」が18.9%となっています。

▶▶▶ 事業所調査（N=53）【SA】

(3) フェアトレードタウンの取り組みの認知度（市民満足度調査より）

・「名前も内容も知っている」が17.1%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が27.1%、「知らない」が54.2%となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）【SA】

(4) フェアトレードタウンの取り組みを行っているか（事業所調査より）

・「行っている（HPや会社案内等の媒体で紹介している）」が0%、「行っている（HPや会社案内等の媒体で紹介はしていない）」が7.5%、「行っていない（今後行う予定がある）」が9.4%、「行っていない（今後も行う予定はない）」が79.2%となっています。

▶▶▶ 事業所調査（N=53）【SA】

(5) ゼロカーボンシティの取り組みの認知度（市民満足度調査より）

・「名前も内容も知っている」が12.3%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が27.8%、「知らない」が58.2%となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）【SA】

(6) ゼロカーボンシティの取り組みを行っているか（事業所調査より）

・「行っている（HPや会社案内等の媒体で紹介している）」が18.9%、「行っている（HPや会社案内等の媒体で紹介はしていない）」が18.9%、「行っていない（今後行う予定がある）」が11.3%、「行っていない（今後も行う予定はない）」が45.3%となっています。

▶▶▶ 事業所調査（N=53）【SA】

(7) グリーンクリエイティブいなべの取り組みの認知度（市民満足度調査より）

・「名前も内容も知っている」が14.6%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が31.2%、「知らない」が52.4%となっています。

▶▶▶ 市民満足度調査（N=1,301）【SA】

第3節 まちづくりの課題と方向性

1 豊かな自然環境を守り、活かすまちづくり

本市は緑豊かな自然環境に恵まれたまちです。市民や中学生、高校生のアンケート調査でもまちの魅力として「自然」が上位を占めています。

今後も、この自然環境を守り、暮らしと自然が調和した魅力的なまちづくりを進めるとともに、大切な自然を守るためにも自然環境を活かしたまちの活性化に取り組む必要があります。

2 人口減少社会を前提としたまちづくり

日本の総人口は平成 20（2008）年をピークに減少局面に入っており、令和 35（2053）年には 1 億人を下回ると推計されています。また、都市部への人口集中の傾向も続いており、地方における人口減少に歯止めをかけることが全国的な課題となっています。

本市は自動車産業を中心とした企業誘致の成功等により、人口減少の抑制に成功しています。また、東海環状自動車道いなべインターチェンジが令和 6（2024）年度内に開通する見込みとなっており、企業活動の活性化や交流人口の増加が期待されています。

今後は、自動車産業に次ぐ新たな産業の活性化にも取り組み、多様で魅力的な雇用の創出を図り、定住人口の減少を抑制する必要があります。そして、高齢期まで安心、安全に暮らすことができるとともに、若者や子育て世代に選ばれる魅力的なまちづくりを推進する必要があります。

観光交流人口は、令和元（2019）年に開設した「にぎわいの森」の影響で増加傾向にありますが、今後も地域資源の磨き上げを継続し、交流人口や関係人口の増加を図り、人口減少社会においても、まちの活力を維持・向上させていく必要があります。

3 持続可能なまちづくり

平成 27（2015）年に国連において採択された持続可能な開発目標「SDGs（Sustainable Development Goals）」は、世界的な課題の解決に取り組み、持続可能で多様性のある「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済や環境保全・脱炭素など、幅広い分野の課題に取り組む国際社会全体の目標です。

本市は令和 2（2020）年に「SDGs 未来都市」に選定されています。今後も先駆的な自治体の一つとして、脱炭素やウェルビーイング※などの視点もふまえ、多様な施策分野で SDGs の推進に取り組むとともに、市民への普及啓発を促進する必要があります。

※ウェルビーイング：個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念



4 デジタルトランスフォーメーション（DX）※の推進

IOT※や AI※の進化、ビッグデータの活用等によって、ロボットや自動運転などの様々な技術革新の進展が期待されています。また、こうした状況を背景に、仕事のあり方や働き方も変化することが予測されています。

本市では、令和 4（2022）年に「いなべ市地域情報化計画」を全面的に見直し、DX の推進に積極的に取り組んでいます。今後も誰もがそれぞれのニーズに即した行政サービスを受けることができる「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を推進することが必要です。

※デジタルトランスフォーメーション（DX）：IT の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること

※IoT：Internet of Things（モノのインターネット）。様々な物をインターネットにつなぎ、通信や制御するシステムやサービスの総称

※AI：Artificial Intelligence（人工知能）。

5 こどもまんなか社会の推進

国では保育の受け皿確保、幼児教育・保育の無償化等、子育て支援の充実にに向けた取り組みが進められています。また、国では令和5（2023）年に「こども大綱」を定め、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、子どもの視点を大切にした取り組みが求められています。

本市においても、本計画の策定にあたり、従来の中学生調査に加え、小学生、高校生からも意見聴取を実施しました。今後は、すべての分野において、子どもや子育て世代の若者の視点を大切にした施策の推進を図る必要があります。

6 安心安全のまちづくり

平成23（2011）年の東日本大震災や平成28（2016）年の熊本地震、令和6（2024）年の能登半島地震など、近年、全国で予測の難しい甚大な自然災害が発生しています。

三重県では、南海トラフ地震の発生が予想されており、本市においても大きな被害が発生する可能性があります。市民の命を守る防災体制の充実を図るとともに、市民一人ひとりの日頃の防災に対する意識の向上や地域福祉の推進を通じた地域の防災力の向上が重要です。

7 協働のまちづくり

全国的に人口減少、少子高齢化、自治会加入率の低下等、地域活動の担い手が減少傾向にあり、地域コミュニティの力が低下しています。

本市では各地区の住民主体による福祉委員会の設置を推進しており、令和5（2023）年度現在118地区中71地区で福祉委員会が設立されています。地域の人間関係が希薄化するなか、見守り活動や近隣の助け合い等、地域のつながりの大切さが再認識されており、まちづくりへの市民の参画・協働の視点に立ったまちづくりが求められています。

8 激しい変化が前提のまちづくり

令和元年（2019）年に発生した新型コロナウイルス感染症の流行を機に、世界規模で人々の価値観や行動に変化が生じています。

また、DXの急速な進展や予測が難しい自然災害など、大きな社会変化につながる要素が多様に存在しています。

こうしたなか、様々な分野で新しい取り組みを重ねることが重要となっており、リスクは最大限に抑えつつ、激しい社会変化を前提とした柔軟で迅速なまちづくりが必要となっています。

9 効果的な行財政運営

本市では、合併後に施設の統合は進めてきましたが、廃止は行っておらず、老朽施設等における耐用年数をふまえた対策が必要となっています。

令和4（2022）年現在で、本市の財政力指数※は0.79（全国平均0.49、三重県下で29自治体中6位）、経常収支比率※は89.60％（全国平均92.20、三重県下で29自治体中18位）となっています。これまでは比較的健全な行財政運営を行ってきましたが、今後は、人口減少の影響や合併特例債等の大きな財源が無いなか、財政規模の縮小が予測されており、今まで以上に総合計画と行財政改革とが強く連動した、効果的な行財政運営を推進する必要があります。

※財政力指数：地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる。

※経常収支比率：地方税、普通交付税のように使途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される一般財源（経常一般財源）のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費が占める割合。

10 シビックプライドの醸成

本市の市制施行から20年が経過しました。市制施行以降に生まれた世代である中学生、高校生のアンケート調査では、市への愛着は一般市民よりも高く、かつ経年で見ても年々増加傾向にあります。

本市では、市制施行以来、第1次総合計画及び第2次総合計画を通じて、人口減少抑制や地域資源の磨き上げによるまちの魅力向上、教育、子育て、各種福祉施策の充実や市民協働による地域活性化等に取り組んできました。市制施行から20年が経過するなか、今後はより一層、市民が本市に対する誇りや愛着を持つことができるまちづくりが必要です。

※シビックプライド：まちに対する誇り、愛着及び共感を持ち、まちのために自ら関わっていかうとする気持ち

第4章 まちづくりの基本方針

激しい変化を前提とした人口減少社会のなかでも、まちの活力を維持、向上させるとともに、多様性があり、安心、安全で持続可能な「市民が主役のまちづくり」を進めるため、以下に基本理念と将来像を定めます。

第1節 まちづくりの基本理念（案）

～いきいき笑顔応援のまち～

基本理念は、市民と行政が共有するまちづくりの基本となる考え方です。

「いきいき笑顔」は、人とまちが健康で生命力にあふれた姿を表しています。

人の健康とは、子どもから高齢者まで、障がいや疾病があっても、誰もが生きがいをもって、その人らしく自己実現をめざした暮らしが営めるとともに、それを支える市民の共助による取り組みや公的な施策が充実し、安心できる環境が整っている状態を表しています。

また、まちの健康とは、自然と共生できるゆとりある空間が創出されるとともに、しっかりと生活基盤のもとで、地域資源を活かした産業が活発に展開され、市民のみならず、市外の人でも住んでみたい、訪れてみたいと思える力強いまちづくりの展開を表すものです。

このように人もまちも“いきいき”としたまちづくりを推進することを、本市のまちづくりの基本理念とします。

第2節 まちづくりの将来像（案1）

～誇りと愛着～『わたしのまち いなべ』

新市誕生後の第1次総合計画では、「安心・元気・思いやりがまちの宝物 いきいき笑顔応援のまち いなべ」を将来像に掲げ、「いなべブランド事業」を通じて各種サービスの磨き上げや情報発信に取り組み、人とまちが健康で、誰もが生きがいをもって、その人らしく自己実現を目指した暮らしを営むとともに、それらを支える市民の共助による取り組みや公的な施策の充実、安心できる環境の整備を行い、市民が主役のまちづくりを推進してきました。

第2次総合計画では、第1次総合計画の将来像「いきいき笑顔応援のまち」を基本理念に位置づけるとともに、まちの健康をより一層力強く展開するため、「住んでいーな！来ていーな！活力創生のまち いなべ」を将来像に掲げ、積極的な地方創生の取り組みを中心に、人口減少の抑制対策や新たな産業の創出、交流人口の増加対策を推進してきました。なかでも「グリーンクリエイティブいなべ」の取り組みを通じて、本市の豊かな自然、里山、農産品等の地域資源を発掘し、都会的なセンスで磨き上げ、地域で生活し、楽しみながら仕事ができる生活産業を発信することで、若者等が起業・創業の可能性を見出せるような、選ばれるまちを目指してきました。

第3次となる本計画では、第1次総合計画と第2次総合計画の経緯をふまえ、多くの市民がまちの魅力と感じている自然を改めて大切にしながら、暮らしと自然が調和した快適で安心安全なまちづくりを継続するとともに、いなべ市らしく地域資源を徹底的に活かし、市内外の人々を惹きつける、魅力的なまちづくりを進めます。

本市の誕生から20年が経過するなか、「いなべ市に愛着を感じている」という中学生、高校生の若者世代が大きく増加しています。

今後は、本計画の目標年次である令和17（2035）年度に向けて、小学生が思い描いた「10年後の幸せ」を胸に刻みながら、すべての世代の多様な人々が、市外から本市に関わる関係人口の人々が、「いなべ市」に誇りと愛着を持つことのできるようなまちづくりに取り組みます。そして、「いなべ市は『わたしのまち』である」と感じる人々の増加を推進力として、変化の激しい人口減少社会においても、活力に満ちた持続可能なまちづくりを力強く進めていきます。

第2節 まちづくりの将来像（案2）

「好き」が、あふれる。『私のまち いなべ』

新市誕生後の第1次総合計画では、「安心・元気・思いやりがまちの宝物 いきいき笑顔応援のまち いなべ」を将来像に掲げ、「いなべブランド事業」を通じて各種サービスの磨き上げや情報発信に取り組み、人とまちが健康で、誰もが生きがいをもって、その人らしく自己実現を目指した暮らしを営むとともに、それらを支える市民の共助による取り組みや公的な施策の充実、安心できる環境の整備を行い、市民が主役のまちづくりを推進してきました。

第2次総合計画では、第1次総合計画の将来像「いきいき笑顔応援のまち」を基本理念に位置づけるとともに、まちの健康をより一層力強く展開するため、「住んでいーな！来ていーな！活力創生のまち いなべ」を将来像に掲げ、積極的な地方創生の取り組みを中心に、人口減少の抑制対策や新たな産業の創出、交流人口の増加対策を推進してきました。なかでも「グリーンクリエイティブいなべ」の取り組みを通じて、本市の豊かな自然、里山、農産品等の地域資源を発掘し、都会的なセンスで磨き上げ、地域で生活し、楽しみながら仕事ができる生活産業を発信することで、若者等が起業・創業の可能性を見出せるような、選ばれるまちを目指してきました。

第3次となる本計画では、第1次総合計画と第2次総合計画の経緯をふまえ、多くの市民がまちの魅力と感じている自然を改めて大切にしながら、暮らしと自然が調和した快適で安心安全なまちづくりを継続するとともに、いなべ市らしく地域資源を徹底的に活かし、市内外の人々を惹きつける、魅力的なまちづくりを進めます。

本市の誕生から20年が経過するなか、「いなべ市に愛着を感じている」という中学生、高校生の若者世代が大きく増加しています。

今後は、本計画の目標年次である令和17（2035）年度に向けて、小学生が思い描いた「10年後の幸せ」を胸に刻みながら、すべての世代の多様な人々が、市外から本市に関わる関係人口の人々が、「いなべ市」に「好き」があり、誇りと愛着を持つことのできるまちづくりに取り組みます。そして、「いなべ市は『私のまち』である」と感じる人々の増加を推進力として、変化の激しい人口減少社会においても、活力に満ちた持続可能なまちづくりを力強く進めていきます。